

1. 調査報告概要表

作成日 平成20年 9月25日

【評価実施概要】

事業所番号	〃0173200528
法人名	おや里かん 有限会社
事業所名	グループホーム・ふ・れ・や・か・おや里かん
所在地	北海道上川郡和寒町字大成121番地 (電 話) 0165－32－6881
評価機関名	(有) NAVIRE
所在地	北見市本町5丁目2－38
訪問調査日	平成20年9月24日

【情報提供票より】(20 年 7 月 1 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 12 月 20 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 9人, 非常勤 9 人, 常勤換算 4.3 人	

(2)建物概要

建物構造	木 造 造 り 平 屋 建 て		
	1 階 建 て の 1 階 部 分		

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	14,600 円	その他の経費(月額)	共益費18,000円
敷 金	無	暖房費8,000円(10月～5月)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	400 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(7 月 1 日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	4 名	要介護2	4 名		
要介護3	6 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.1 歳	最低 71 歳	最高 94 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	市立士別総合病院 ・ 町立和寒病院 ・ 和寒歯科医院
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームふれやかおや里かんは、カボチャ畑の広がるのどかな田園地帯である和寒町中心部より北部に位置し、建物は旧大成小学校を改修した1ユニットと増築した1ユニットの平屋の木造建物となっています。体育館部分は今でも公民館として地域住民に開放されており、ホームが管理委託を受けています。利用者が避難場所として又、歩行訓練やボランティアとの交流の場所、レクリエーションを楽しむ場として活用しています。近隣に老人会館があり行事があれば出向いて交流をしています。管理者及び職員は前向きに意欲を持って何事にも取組んでおり、朝食後は、皆で歌や体操やゲームをする時間を創り体力低下の予防に支援をしています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	引継ぎ時に職員全員で作り上げた理念を復唱して認識を共有し、休憩室やトイレ等の目の付く所に掲示されています。携帯できる理念カードも持っています。夜間入浴について利用実績はありませんが、利用者のケア記録の改善で水分摂取量も情報の共有が来ています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者と職員は自己評価の意義について充分理解しており、自己評価に当たっては職員から聞き取り、全体で検討会議を行ない管理者が取りまとめています。利用者・家族の意見・要望を謙虚に検討し、良いホーム創りを目指しています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は町保健福祉センター代表者・自治会長・民生委員・家族会代表・管理者・職員とで構成されており、おおむね3ヶ月に1度開催されています。ホームの運営方針や行事の説明、外部評価についての報告などについて、会議が行なわれています。議事録は出席者や家族全員に配布しています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の要望を聞入れる意見箱も設置していますが利用は無く、家族が面会時に意見や要望の聞き取りを行なっており良い関係を築いています。また家族会を開いて話し合う機会を設けています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の人々が野菜を差入れてくれたり、立ち寄り関係が出来ています。管理者等が町内会に加入しており町の行事に参加したり、ボランティアの訪問では一緒に食事を取ったりして交流を深めています。町内会の連絡網をSOSネットワークとして支援に活かす様検討しています。

(有)NAVIRE

2. 調査報告書

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	施設立上げ時に作った「個々の個性を活かし穏やかで安らぎのある生活空間の提供」の理念と、職員で作り上げた7項目の理念があります。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は居間・玄関・スタッフルーム・面接室・WC等のホーム内に見やすい位置に掲示されていて職員の毎朝の引継ぎ時、復唱して理念の共有に取り組んでいます。携帯用理念カードを持っています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	七夕まつりや敬老会と一緒に参加しています。また芸能一座のボランティア慰問もあり、時には食事を取り交流しています。和寒幼稚園と交流する計画を持っています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員が自己評価に組み問題点や改善点を全体会議にて再確認しています。サービスの質の向上に活かす為外部評価も積極的に受入れ、改善点がゼロになるよう日々取り組んでいます。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	おおむね3ヶ月ごとに運営推進会議を開催し、行事の予定と報告・意見要望・外部評価の説明を出席者に報告しています。議事録を出席者と家族全員に送付しています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月発行しているおや里かん通信を和寒町福祉課・町立病院のケースワーカーに持参して、情報の共有を図っています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の健康状態や日々の様子及び金銭出納状況について記載された案内文を家族に毎月郵送しています。緊急時にはその都度電話連絡を行い報告しており、面会時にも説明しています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に苦情受け付け窓口や意見箱の設置、苦情受け付け機関の連絡先を掲示しています。家族からの不満・苦情があった場合は、全体会議や引継ぎ時に検討が必要な内容については話し合いが出来る体制が築かれています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は離職時、利用者のダメージをカバーし、馴染みの職員や引継ぎの職員がケアに当たりフォローしています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種の研修会に参加し、職員全員が携われる様勤務シフトを考慮しています。外部研修での内容を報告会で発表して、情報の共有とスキルアップに役立てています。	○	管理者や職員が毎月講師担当者として内部研修を行っていますが、職員が外部研修への参加が少ない為今後積極的に取り組んで頂き、情報の共有をする事を望みます。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各種研修会への参加や、包括支援センター主催の勉強会等に参加してサービスの質の向上に取り組んでいます。不定期に町内の通所介護・訪問介護事業者と交流をしています。	○	近隣町村のグループホームとの交流を深めスキルアップする事を望みます。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用申し込みがあった場合、利用者や家族に対し、ホーム内の見学や1～3日間の宿泊体験等で雰囲気を感じ取ってもらえる様工夫しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で利用者とのコミュニケーションや表情から感情を読み取り、利用者に役割を持って一緒に行ない互いに支えあう関係が築かれています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活スタイルを崩すことなく、思いや希望を把握する事に心掛けています。意向の把握が困難な場合は、家族と一緒に相談しながらより良い介護が出来る様検討しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者・家族・職員・介護支援専門員等で話し合い、月1度のカンファレンスも実施しています。3ヶ月ごとに介護計画を見直し担当者会議を開いてモニタリングを行なっています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直し以前に大きな変化がある場合、ケアカンファレンスを行い利用者や家族と相談した上で随時計画の見直しを行っています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者一人ひとりに合わせた食事支援・外出支援・買物支援・体育館でのレクリエーション支援など柔軟な対応が行われています。家族の状況に応じ、受診や送迎が必要な場合に支援しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望された病院への受診をしています。急変時は、かかりつけの病院に連絡し相談や搬送を行なっています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	去年食道癌の利用者を終末期まで介護をした経験から、入所時に説明を行いかかりつけ医や協力医療機関の協力を得て対応しています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の自尊心を傷付けることなく、ゆっくりはっきりと聞き取り易い話し方を心掛けています。見守りながらケア記録を書き入れ、個人情報の利用に関しても家族の同意を得ています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活ペースに合わせた支援を行う様心掛けています。また一人ひとりがその日にしたい事を充分把握して支援をしています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に楽しく食事が摂れる様に心掛けています。嚥下困難な場合はきざみ食にするなど状態に合わせて工夫をしています。食材の下準備や盛り付け・食事の配膳や後片付けも利用者の役割を持ってもらう支援をしています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回入浴日は決まっていますが利用者の希望やタイミングにより、いつでも入れる支援を行っています。入浴を長くしたい利用者については意思を尊重する支援をしています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野で力を発揮出来る様趣味など把握し、洗濯物のたたみや食事の配膳や後片付け・縫い物・畑仕事等の支援をしています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の買物や散歩等の外出支援を行っており、三笠山自然公園への遠足や剣淵町レイクサイド公園など外出支援をしています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は日中午後5時まで鍵は掛けない支援をしており、居室の戸について鍵は付いていますが、本人の了解を得て鍵を掛けない様声掛け見守りをしています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練を実施しています。職員はマニュアルを確認し実践出来るよう心がけています。	○	SOSネットワークに取り組んでいますが地域との連携は未完成となっています。緊急対応マニュアルを整備していますが、今後夜間避難時を想定して地域住民の協力も得られる様望みます。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員がケア記録を把握し、適切な水分の摂取や食事の摂取量の支援をしています。食事内容については利用者の希望を摂り入れたメニューが提供されています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて花を飾ったり、誕生会や行事での写真の掲示、またお雛様やかぶとなど季節感を感じる工夫を取入れています。窓からは畑や林が見えて静かな環境を感じられます。不快な音や光がない配慮もされています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に利用者や家族に説明がされており今まで使用していた布団・タンス・鏡台・ソファ・テレビ・仏壇等を持ち込み自分らしい空間で生活をしています。		